

センターだより

第56号

令和2年3月18日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

副所長あいさつ

名著から学ぶ教育のあり方

新たな時代「令和」が幕を開け、1年が経とうとしております。学校教育においては、令和2年度から新しい小学校学習指導要領が全面実施となり、他校種も含めた未来を担う子供たちに、社会の変化に対応できる「生きる力」を養うこと、また、個性や創造性の伸長を図り、「自ら学び、自ら考える力」を育てることが求められております。このような中、青森県総合学校教育センターは、学校教育の様々な課題や教育ニーズに対応する専門的な教育機関として、「研修」「研究」「学校支援」「教育相談」の機能に関係した事業を展開し、子供たちや教職員、保護者の方々がいきいきと輝けるような支援の充実に努めております。

さて、私が、当センターに勤務して感じたことを紙面をお借りして紹介させていただきます。平成27年度に高校教育課長として初めて当センターに勤務しましたが、最初の業務が4月1日に行われた辞令交付式後の初任者研修でした。最初の挨拶で所長が、大村はま氏（1906-2005）を紹介しておりました。国語教員である大村氏は、最後まで実践家としてご活躍された方で、著書を読んで参考にした方も多いのではないのでしょうか。この挨拶の中では「戦前・戦後を通じて52年間、一現場教師の職にあり続け、生涯を通じて国語教育の実践、研究に取り組んだ日本国語教育のパイオニア」として紹介されております。大村氏は、多くの講演をされる中で「自分の講演を『感動しました』と言う人は多いけれど、それで止まってはだめ。それで次の授業がどう変わるかが大事なのに」と、自分の話が先生方の授業改善に繋がっていないと悩むほど実践にこだわった方です。初任者のみならず、私も心新たにセンター勤務初日の所長の挨拶でした。今日、研修の形態は講義型から演習を含めた実践的なものへと変わっておりますが、自身の資質能力の向上と併せて、自身の学校でそれを活かすことが大事なのは言うまでもありません。当センターでは、課においての研究、研究員による研究そしてプロジェクト研究により、研修講座の質を高めることにも力を注いでおりますが、まさに大村氏の言葉の実現に努力する必要があると感じております。

令和2年2月14日に弘前大学教職大学院研究報告会が当センターを会場に行われました。1年次院生の経過報告や2年次院生の研究報告がありましたが、私は算数・数学を中心に報告会に参加しました。それぞれの論文の課題設定のところに、松原元一氏（1909-2000）の言葉が引用されており、前述の大村はま氏同様の感動を覚えました。数学教員の中には座右の書として松原氏の著書である「数学的見方考え方」や「考えさせる授業ー算数・数学」をあげる方もいらっしゃるかと思います。その後松原氏の著書を読み返しましたが、名著そして教育を牽引してきた方々のことばかり得られるものが多いと感じました。「名著」と呼ばれる書物にはいつの時代も変わらない原理原則や、ぶれない軸があります。我々教職員の道しるべとなるので、時々でも「名著」にふれていただければと思います。

このように書いておりますと、最初の勤務校である青森聾学校時代、伊藤隆二氏（1934-）の「障害児に学ぶ」に影響を受けた記憶がよみがえってまいりました。伊藤氏に関しては講演を聴く機会もありました。「特別支援教育は教育の原点」ともいわれますが、「この子らを世の光に」「この子らは世の光なり」というフレーズには今でも考えさせられるものがあります。この本は、1981年に発行されたものですが、当センターの図書資料室には、大村はま氏、松原元一氏、伊藤隆二氏の著書合わせて42冊を含め、指導主事が選んだ各教科・領域の書籍や教育雑誌等もそろえておりますので、研修の合間に気軽にお立ち寄りください。

最後になりますが、来年度の研修講座のテーマは「“これからの社会を生き抜く力”を育む“教師力”の向上」です。4月3日より研修講座の受講申込みが始まりますが、教職員個々の資質能力向上のため、また、学校課題の解決に向け、多くの受講を期待しております。校内研修等講師派遣事業に関しては、一部弘前大学教職大学院と連携した形で行いますので、併せてご活用いただければ幸いです。

今後とも当センターを積極的に活用いただくようよろしくお願いいたします。

（県総合学校教育センター 副所長 和久秀樹）

中堅教諭等資質向上後期研修について

令和2年度開催の中堅教諭等資質向上後期研修共通講座では、「青森県教職員研修計画 研修と指標の関連(教諭・助教諭)」を参考とし、校種共通で「中堅教員に期待すること、カリキュラム・マネジメント、組織マネジメント、同僚性、メンタルヘルスの要素、保護者対応」を盛り込んだ内容としております。
それぞれの校種について、以下で具体的にお知らせします。

小・中学校

- ① 中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)
 スクールマネジメント講座
- ② 中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)
 授業実践力アップ講座

スクールマネジメント講座は、「学校運営への参画意識を向上させる」ことをねらいとしています。1日目に上越教育大学大学院の安藤知子教授から「中堅教諭に必要なマネジメント意識」の講義をしていただき、続けてメンタルヘルスや特別支援教育、危機管理、校務分掌などを協議で取り組むという視点で研修していきます。

授業実践力アップ講座は、「自分の教科の授業力を磨く」ことや、「受講者の同僚性を高め、『教師の学び』というものを継承していく」ことをねらいとしています。2年目のフォローアップ研修と合同で行う演習・協議も設定し、学校現場での同僚性を意識化し、実践につなげることを目指します。

選択する教科と教科外の講座も含めて、県が定める「教員の資質の向上に関する指標」のキャリアステージに応じた研修内容としています。

幼稚園、幼保連携型認定こども園

- ◇ 中堅教諭等資質向上後期研修(幼稚園等)
 幼児教育専門講座

上記講座は、教育課程全体を見通した保育活動への理解を深めること(マネジメント能力の向上)をねらいとしています。そのため、幼児教育についての理念と、関係機関や家庭との連携等の実務的な内容を研修します。また、自園の課題解決の方策を探る協議を行うことを通じてモデルリーダーとしての資質の向上も目指しています。

養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員

- ◇ 中堅教諭等資質向上前期・後期研修(養護教諭)Ⅰ・Ⅱ
- ◇ 中堅教諭等資質向上前期・後期研修(栄養教諭・学校栄養職員)Ⅰ・Ⅱ

養護教諭及び栄養教諭・学校栄養職員の研修講座は、それぞれ中堅研前期研修と後期研修を合同で開催します。

中堅研Ⅰでは、「健康教育の今日的課題」の講義と、保健教育に係る、講義・協議を、養護教諭と栄養教諭・学校栄養職員で、合同開催としています。「健康教育の今日的課題」の講義では、各学校での健康課題解決に向けて重要な責務を担う養護教諭と栄養教諭・学校栄養職員がともに学びます。また、保健教育に係る講義・協議では、「同僚との連携・協働」の視点を踏まえ、それぞれの職の特性を活かした授業づくりを通して、保健教育の理解を深める内容となっています。その他、養護教諭は中堅養護教諭の役割と資質能力の向上について学びます。栄養教諭・学校栄養職員は、学校現場の実践を踏まえた役割について振り返り、学校給食における危機管理、業務遂行上の課題と課題解決の方策を考える内容構成としています。

中堅研Ⅱでは、養護教諭は、様々な分野の講師を迎え、専門性や実践的指導力の向上を図るための内容構成としています。栄養教諭・学校栄養職員は、校内外における役割や課題、課題解決のための在り方について学ぶ内容構成としています。

高等学校・特別支援学校

- ◇ 中堅教諭等資質向上後期研修 共通講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

共通講座Ⅰは、高等学校と特別支援学校で一部合同開催します。学校課題についてカリキュラム・マネジメントの視点で考えることをねらい、前段にカリキュラム・マネジメントについて学び、その視点をもとに自校の課題について考える内容構成にしています。

共通講座Ⅱは、焦点を授業に絞ります。高等学校では、初任者と一緒に「資質・能力を育む授業づくり」について協議していく内容となっています。特別支援学校では、自らの授業だけでなく、他の教員の授業についても、ファシリテーション的立場で授業協議会を運営していくことを学ぶ内容になっています。

共通講座Ⅲは、高等学校では、共通講座Ⅱで研修した内容を基に、学校現場で実践した授業の映像を見ながら他教科の視点で協議し、授業を通して育みたい資質・能力を身に付けるための活動になっているのかを考える内容になっています。特別支援学校では、関係機関との連携について、担当している児童生徒だけでなく、学校として関係機関とどのように連携し、高等部卒業後の有意義な生活に向けてどのようにサポートしていけば良いのかを考える内容になっています。

中堅後期研は、カリキュラム・マネジメントをテーマにしています。教職経験12年を越え、中堅教諭として、学校全体を俯瞰してみる力をつけることをねらいとしています。今後中堅教諭として学校を牽引していくことを念頭に置きながら、今、どのような資質が必要で、今後どのような役割を担っていくのかについて見据えた講座内容としています。



令和2年度新規研修講座の紹介

<h2>C42 小・中学校 体育授業づくり 研修 講座</h2>	<p>これからの学校体育では、障害者も含む全ての人が豊かなスポーツライフを送るための資質・能力を育成することが求められています。技能習得に偏った授業、勝利が目的化した授業から脱却し、学習指導要領改訂の趣旨を生かした、豊かなスポーツライフの基礎を築く これからの体育授業について、一緒に考えてみませんか。</p> 	
<p>9月28日(月)</p>	<p><講師> 横浜国立大学教授 梅澤 秋久 氏</p>	
<h2>C46 小・中学校 英語科研修講座</h2>	<p>小学校と中学校でそれぞれ同じ英語という言葉をお教えているながらも、互いの校種でどの様な内容を、どの様な方法で教えているかは、分からないことが多いのではないのでしょうか。この講座では、小・中学校の先生方に互いの校種における指導内容や指導方法について学んでいただくとともに、英語教育における小・中の接続を円滑に行うための方法についても学んでいただこうと考えております。</p> 	
<p>6月29日(月)</p>	<p><講師> 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 山田 誠志 氏</p>	
<h2>D12 今日から始める グループ・アプローチ 研修講座</h2>	<p>「グループ・アプローチ」の手法を体験し、まずは大人同士がつながるということを実感しませんか？そして、自身の体験を通じて、子供同士をつなげることを目指します。 特に、「対人関係ゲーム」の温かく楽しい体験を通じたコミュニケーションを習得することによって、いじめや不登校の未然防止につなげることを目指す講座です。</p> 	
<p>8月19日(水)</p>	<p><講師> 聖徳大学教授 鈴木 由美 氏</p>	
<h2>C19 専門外も学べる 高等学校理科研修 講座[物理基礎]</h2>	<h2>C20 専門外も学べる 高等学校理科研修 講座[化学基礎]</h2>	<h2>C21 専門外も学べる 高等学校理科研修 講座[生物基礎]</h2>
<p>6月26日(金)</p>	<p>6月19日(金)</p>	<p>6月18日(木)</p>
<p>物理を専門としない理科教員が、高等学校「物理基礎」や「科学と人間生活」物理分野を担当した際に必要な授業デザインの方法や実験・観察の方法について研修することで、授業力の向上を図ります。</p>	<p>化学を専門としない理科教員が、高等学校「化学基礎」や「科学と人間生活」化学分野を担当した際に必要な授業デザインの方法や実験・観察の方法について研修することで、授業力の向上を図ります。</p> 	<p>生物を専門としない理科教員が、高等学校「生物基礎」や「科学と人間生活」生物分野を担当した際に必要な授業デザインの方法や実験・観察の方法について研修することで、授業力の向上を図ります。</p>

掲載された新規講座以外の研修講座については、3月13日付けで、各学校へ配付しました『令和2年度研修講座案内』にて紹介していますので、そちらもご覧ください。



青森県総合学校教育センター
イメージキャラクター

アップセ君